

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 図書館報

vol. **59**

2024年6月30日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
図書館



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センペル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



巻頭言 最後の一文の起源を求めて ... P.1

P.2 文中作品紹介

P.3 著書紹介

P.4 蔵書点検実施報告

ほか

最後の一文の起源を求めて

イスパニア学科 准教授 穂原 三佳

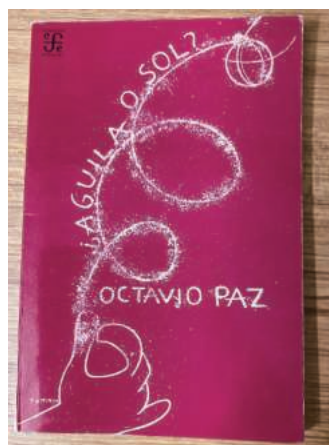
スペインの作家イレネ・バジェホは、『パピルスのなかの永遠』においてアレクサンドリア図書館の文献学者の作業を探偵の仕事に喩えている。古の大図書館には、ホメロスをはじめあらゆる作家による物語のいくつものバージョンが集められた。手書きであった当時の複製には機械による大量生産とは異なり、くり返される過程で無数の誤りや書き落としが生じ、時には物語の文学的メッセージにまで影響を及ぼした。文献学者たちは当初同一であったはずの物語の様々な版を照合し、テキストの原型の再構築を試みた。

今日でも文学研究の領域では時折探偵のような作業が求められる。複製の過程よりむしろ作者自身による加筆修正から生じた複数のバージョンを検討する機会が多い。20世紀ラテンアメリカ文学においても、版を重ねるうちに作品が書き換えられた例がみられる。本稿ではメキシコの詩人オクタビオ・パスとキューバの作家アレホ・カルペンティエルのケースを紹介する。以下ではパスの「波と暮らして (Mi vida con la ola, 1949)」とカルペンティエルの「選ばれた人びと (Los advertidos, 1965)」という2つの短編小説の内容にふれるため、もしもよろしければ先に次項の書籍リスト記載の作品をご一読いただければと思う。

「波と暮らして」は、夏の海辺で出会った青年と「波」との交歓を描いた幻想譚である。青年と「波」は当初仲睦まじく過ごす。季節の移り変わりとともに「波」は不機嫌に、荒々しく振る舞うようになり、やがて青年の命を脅かし始める。耐えかねた青年は、ある冬の朝ついに「波」と決別する。氷の像と化した「波」を彼はレストランに持ち込み、受け取ったウェイターがアイスピックで砕いていく様子を見守る。

この短編には複数の邦訳があるが、いずれも砕かれた「波」がアイスペールを満たしていく描写で物

語が閉じられている。ところが一部の原書には、それに続いて "Así acabó mi vida con la ola" (こうして僕の波との生活は終わった) という一文がみられる。書誌を辿ると、パスは当初この文をつけた形で作品を発表していたが、その後削除していたことがわかった。邦訳は書き換えを経た新版に基づくものだといえる。



◀ 「波と暮らして」の旧バージョンが収録されている1990年版の作品集 *¿Águila o sol?* なお、同じ表紙デザインで2001年に出版された50周年記念版には新バージョンが収められている。

砕かれた「波」の描写と、青年による総括めいた一文、物語の閉じ方としてどちらが「怖い」か。この作品が『ラテンアメリカ怪談集』というアンソロジーに収録されていることから、筆者が担当する文学の授業で学生に尋ねたところ、多数が前者を選び、その理由として「まだ話が続きそうな印象を受ける」、「後者のようにサバイバーとしての青年の言葉がある方が安心できる」といった声があがった。他方、後者を選び、「かつて愛した存在の無残な姿を前に淡々と語れる青年がむしろ怖い」とコメントした受講生もいた。このように、ごく短い文の有無で物語の読後感は異なり、読者が受ける印象もまた様々であるようだ。

カルペンティエルの短編「選ばれた人びと」では、仏語訳に原書や邦訳の末尾にない一文がみられる。洪水神話のパロディといえる物語のなかで、神のお

告げを受けた老人アマリワクは大船を造り、家族や動物たちとともに大洪水を生き延びるが、その過程で世界各地からそれぞれの神のお告げに従い難を逃れてきた「同類」に遭遇する。自らが神に選ばれた唯一の者ではないことに落胆した老人は、さらに、その後大地に生まれた人間たちが相争う姿を前に、すべてが徒勞であったと失望する。

原書と邦訳ではアマリワクが再び船旅に出るところで物語が閉じられているが、仏訳では一文加わり、"Et cette nuit-là il but d'énormes quantités de *chicha de maïs*" (その夜、彼はチチャをしたたかに飲んだ) と結ばれている。この自棄酒を思わせる文の由来に



▲作家の自署が彫り込まれた財団入口のプレート
(写真提供：Fundación Alejo Carpentier)

ついてキューバのアレホ・カルペンティエル財団に尋ねたところ、同財団が保管する原稿の一つにこの文を含むものがあるとの回答を得られた。作家が訳者ルネ・デュランに直接送ったと思しきスペイン語のタイプ原稿で、問題の文は手書きのフランス語で末尾に記されていたという。この短編を収めるいずれの原書にも該当するスペイン語の文がみられなかったのは、仏訳の参照元が既刊の原書とは別のおそらくスペイン語としては未刊のバージョンであったためだといえる。精査すれば作者による書き換えのプロセスを垣間見ることができのかもしれない。

今日では、かつてのアレクサンドリア図書館のように世界にある書物すべての所有を夢見ることできない。しかし、無数の書物を一か所に集める代わりに、世界中の施設間で現物あるいはデジタル化した書物や文献情報を相互に提供することができる。本稿執筆の際にもこうしたネットワークの恩恵を受けた。パスの「波と暮らして」が収録された書籍の数々を、本学図書館を介して複数の大学図書館からご貸与いただいた。アレホ・カルペンティエル財団には、筆者の度重なる問い合わせに毎回丁寧にご回答いただいた。あらためて心よりお礼申し上げます。

■ 文中紹介作品(図書館所蔵)

- カルペンティエル・アレホ. 2020. 『時との戦い』 (鼓直・寺尾隆吉訳) 水声社.
(請求記号：N963.9==820)
- パス、オクタビオ. 2024. 『鷺か太陽か?』 (野谷文昭訳) 岩波書店.
(請求記号：N080=13=797-2)
- 鼓直編. 2017. 『ラテンアメリカ怪談集』、河出書房新社.
- バジェホ、イレネ. 2023. 『パピルスのなかの永遠』 (見田悠子訳) 作品社.
(請求記号：N020.2==52)
- Carpentier, Alejo. 1980. *Guerre du temps*, (tra. René L.F. Durand) Paris, Gallimard.
- Carpentier, Alejo. 2014. *Cuentos y otras narraciones*, Madrid, Akal.
- Paz, Octavio. 1990. *¿Águila o sol?*, México, Fondo de Cultura Económica (Colección popular) .



しじょう
市場と国家の関係を問い直す

ロシア学科准教授

伏田 寛範 (ふした ひろのり)

『国家主導資本主義の経済学：
国家は資本主義を救えるのか?』

溝端佐登史編著
文真堂、2022.12発行

図書館所蔵：N332.06==184,
N332.06==184B



皆さんは経済学の本や教科書を読んだことはありますか？ 図書館にも入門から応用まで様々な教科書がありますので、ぜひ一度手に取ってみてください。そして、その教科書の目次を見てください。需要と供給、市場メカニズム、不完全競争、外部性、貨幣システム、GDP、有効需要、IS-LM モデル、開放経済…なんだか難しそうな用語がたくさん並んでいますよね。経済学とはいったいどのような学問なのでしょう？

端的に言えば、経済学とは市場とその場における人間の行動について研究する学問です。私たちは日々買い物をし、スマホを使い、バスや電車に乗っていますが、経済学ではそうした活動(=取引)がなされる場を市場と呼び、その市場で人々がどのような財やサービスを生み出し、消費しているのかを分析するのです。したがって、経済学のメインターゲットは、あくまでも市場で活動する私的プレイヤー(=生産者である企業や消費者である私たちなど)であり、国家の役割が注目されるのは「主役の市場が失敗した場合に限られる」(本書 5 ページ)のです。そう、経済学では国家は脇役に追いやられているのです。ここでもう一度、経済学の教科書の目次を開いてみてください。国家がメインピックとなっている章はありましたか？

さて、現実世界において国家は決して脇役ではありません。たとえば、景気が悪化すれば、各国政府は財政政策や金融政策を実施し、経済の回復に努めます。新産業の発展のために政府は規制緩和をしたり企業に補助金を与えたりすることもあります。特に中国やロシアのような新興国では、国家は資源産業やハイテク産業など国家戦略上重要な産業を直接・間接的に支配し、これらの産業を育成して経済全体の成長を促そうとすることもしばしば見られます。ちなみに私は本書の中で、冷戦の終結後、航空機産業の再編・育成のた

めにアメリカ政府とロシア政府はそれぞれのようなことをしたのかを比較検討していますが、詳しくは本書第3章を読んでください。

国家は民間の経済活動を促すばかりではありません。時には経済活動に制約を加えることもあります。つい最近のコロナ禍では、国家は人々の日常生活に大きな制約を加え、経済全体に大きな影響をもたらしました。また、全世界的な気候変動問題に対処するため、各国はカーボンニュートラルを目標に掲げ、企業の活動に介入しています。そして、今日も続くロシアによるウクライナ侵攻に対し、アメリカや EU 諸国、日本などは数次にわたる経済制裁を科していますが、これもまた国家による民間の経済活動への制約のひとつです。このように、現実世界において国家は経済に介入し続けており、グローバル化が進む今日では(逆説的に見えるかもしれませんが)先進国でも新興国でも途上国でも国家の役割はますます大きくなっているのです。

かつて経済学が生まれた頃(18世紀後半)、経済学は政治経済学と呼ばれていました。政治と経済は一体のものと考えられていたのです。その後、学問としての政治経済学が発展しその理論が精緻化されてゆくにつれ、やがて政治経済学は政治学と経済学とに分化していきました。そして先ほども述べたように、いつしか経済学では国家の問題はあまり取り上げられなくなったのです。本書はこうした経済学のあり方に一石を投じ、国家や政府の問題を再び経済学の守備範囲内に入れようと試みるものです。その際、経済への国家介入の度合いが強いと言われるロシアや中国などを取り上げ、これらの国での経済に対する国家の主導性を比較分析しています。国際関係の激変により地政学や地経学が注目される昨今ですが、皆さんも本書を手にとって今日の経済(市場)と政治(国家)の関係をいま一度考えてみませんか？

蔵書点検(春季)を実施しました

2024年3月21日から29日まで春季の蔵書点検を実施しました。

蔵書点検とは、図書館で所蔵している資料が行方不明になっていないか、また汚損や誤配架によって利用が難しい状況にないか点検する作業です。図書館の蔵書は現在約40万冊で、春休みと夏休みに分けて点検を行うとはいえ、一冊一冊手作業でバーコードをスキャンしていくのは手間がかかる作業です。すべての書架を順に見ていくのですが、もれなく確認するには棚の中で図書が移動しないようにしておく必要があります。このため、作業にかかる期間を閉館とし、図書の貸出・返却をストップしています。

作業時期は、図書館利用への影響を出来る限りおさえるために、利用の少ない長期休業期間(夏季・春季)を選んでいきます。

今回は、合計134,097冊の図書を点検しました。利用者の皆様に円滑に資料をご利用頂くための重要な点検ですので、利用者の皆様には、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしく願いいたします。

つなぐれ読書のボタン

カササギ殺人事件

アンソニー・ホロヴィッツ著・山田蘭訳

古典ミステリーの良いところを抽出して現代に落とし込んだような良作です。一つの物語で二度美味しく、最後まで読んだら満足すること間違いなし。アガサクリストイーが好きなので。ものなのでぜひどうぞ。

第七走者 P N

「つなぐれ読書のボタン」投稿募集！
200字以内であなただけのお気に入りの本を紹介してください。メールで氏名またはペンネーム・紹介資料書名・著者名を明記し、下記の宛先まで。学生、教員、職員など利用区分に関係なくご応募いただけます。

応募先

library@office.kobe-cufs.ac.jp

注意事項

- 氏名またはペンネームを掲載させていただきます。
- 外大図書館に所蔵がないものも応募できます。
- 漫画・雑誌等はお慮ください。



図書館日誌

《2024年1月～2024年6月》

2024年 1.21	日曜閉館日 (後期定期試験期間のための臨時閉館)
3.21-29	蔵書点検
3.25	国立国会図書館よりレファレンス協同データベース年間登録お礼状を受領
4.8	ラーニングアドバイザー(LA)による前期学習相談(対面・オンライン)開始
4.15	JLPオリエンテーション
6.4.5	トライやるウィーク(1校2名受入)

AD ALTIORA SEMPER vol.59

神戸市外国語大学図書館報 第59号

ISSN	0919-2336
編集・発行	神戸市外国語大学図書館 〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
	TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257
	URL: https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日	2024年6月30日
発行責任者	図書館長 竹越 孝